



民主党プレス民主編集部
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1
電話 03-3595-9988(代表)

民主党栃木県総支部連合会
〒320-0043 宇都宮市桜2-1-30
電話 028-627-1700
Eメール minsyu@ace.ocn.ne.jp
ホームページ http://www17.ocn.ne.jp/~minsyu/



(2011年12月1日現在)



政治の大転換と 政策の具現化を推進!

民主党栃木県総支部連合会
代表 **石森久嗣**

日頃より私たち民主党栃木県総支部連合会へのご支援に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。

さて、国内観測史上最大となる東日本大震災により、多くの方の尊い命が失われたことに深い哀悼の意を捧げます。同時に被災された皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

現在、日本は国難ともいえるべき大変厳しい状況の中にあります。震災からの復旧・復興、原発・放射能汚染問題、歴史的な円高による財政問題など、日本が直面している様々な危機を乗り越えることが当面の、そして最優先の課題です。

ところが、遅々として進まないこれら諸問題への対策や、期待に応えきれない政策提言が政治への失望感を増幅させています。

いま一度、2年前の総選挙で私たち民主党に託してくれた国民、県民の想いを思い起こさなければなりません。

そのためにも党内融和、挙党一致を掲げる野田新代表のもと「ひとつひとつ、乗り越えていく。」を合言葉に、政治の大転換と政策の具現化をより一層進めてまいります。

また、各級議員、党員、サポーターのそれぞれの声や力が十分に発揮される全員参加型の運営、それらが党全体としてまとまって大きな力となるように強固に連帯し、国民、県民の皆様のための政治・政策の実現に全力で邁進していきます。

本県選出3国会議員 野田新内閣に入閣!

9月2日に野田佳彦新内閣が発足、本県から3名の国会議員が大臣・政務官に就任しました。野田内閣の一員として職責の重さを噛みしめながら、全力で職務に尽くしています。

- 国家公安委員長
内閣府特命担当大臣(消費者及び食品安全担当)・
拉致問題担当大臣 **山岡賢次** 衆議院議員(県連常任顧問)
- 法務大臣政務官 **谷 博之** 参議院議員(県連常任顧問)
- 総務大臣政務官 **福田昭夫** 衆議院議員(県連常任顧問)

民主党栃木県連役員名簿

相談役	大出 勝久 鈴木 俊 長島 一男	山岡 賢次 谷 博之 福田 昭夫 築瀬 進 石森 久嗣 富岡 芳忠 玉木 朝子 田城 郁	今井 恭男 加藤 優 益子 岩夫 天谷 浩明 鈴木 隆守 塚原 俊夫 山田 美也子 森田 一穂 駒場 昭夫 中村 久信 大川 圭吾 吉田 晴信 植松 明男 山本 幸治 中塚 英範 山口 幸照 森田 晃吉 野中 勝夫 関口 幸雄 原田 守男 濱崎 静子 加賀 春吾 菊地 久二
常任顧問	山岡 賢次 谷 博之 福田 昭夫 築瀬 進 石森 久嗣 富岡 芳忠 玉木 朝子 田城 郁	松井 正一 斉藤 孝明 高田 悦男 保母 欽一郎 加藤 正一 佐藤 栄 保母 欽一郎(兼務)	
代表	石森 久嗣	保母 欽一郎(兼務)	
代表代行	富岡 芳忠	工藤 正志 一木 弘司	
副代表	玉木 朝子	大武 真一 福田 智恵 斉藤 孝明(兼務)	
幹事長	田城 郁	落合 誠記 石川 仁	
副幹事長	松井 正一 斉藤 孝明 高田 悦男 保母 欽一郎 加藤 正一 佐藤 栄 保母 欽一郎(兼務)	藤井 弘一 隅内 正美 青田 兆史 中屋 大 石川 保 山口 孝 大貫 毅 塚原 毅 真壁 英敏 真壁 俊郎 小林 克之 寺内 富士夫 福田 浩二 登坂 理平 館野 崇泰 茂呂 健市 柿崎 全良 金子 達 石田 晃一 高橋 弘 高石 満 山口 浩治 赤嶺 謙二	
財政委員長	保母 欽一郎	保母 欽一郎(兼務)	
選対委員長	保母 欽一郎	保母 欽一郎(兼務)	
組織委員長	保母 欽一郎	保母 欽一郎(兼務)	
政策委員長	保母 欽一郎	保母 欽一郎(兼務)	
広報委員長	保母 欽一郎	保母 欽一郎(兼務)	
男女共同参画委員長	保母 欽一郎	保母 欽一郎(兼務)	
企業団体対策委員長	保母 欽一郎	保母 欽一郎(兼務)	
青年委員長	保母 欽一郎	保母 欽一郎(兼務)	
倫理委員長	保母 欽一郎	保母 欽一郎(兼務)	
常任幹事	保母 欽一郎	保母 欽一郎(兼務)	





民主党栃木県第1区総支部
衆議院議員 石森久嗣

3月11日に起きた東日本大震災。世界中の人たちが、あの津波の映像をみて心を痛め、誰もが何かをしなればと思ったでしょう。自ら動かねば……そう思った私はボランティアグループ「支援隊とちぎ」のメンバーと殆ど情報がないまま、石巻市に向かいました。そこで目にしたのは、家の中に流された家、ビルの屋上にのった車等、想像を絶する光景でした。



現地の方は生き残ったことが奇跡だと誰もが言いました。“命は助かっても今後その命をつなぐことができない”。少しでも絶望感を希望に変えたいとの思いから、半年間で20回以上被災地へ出向きボランティア活動を行いました。

県内のあらゆる支援者からのご厚意を被災地に届け、現地では炊き出しの支援等を行ったこの「支援隊とちぎ」の活動に発足当時から関わることが出来たことは、私の人生で大きな礎となりました。また現場に向かうことで、支援のあり方、問題点、被災者に寄り添う事とは何か、全ての答えを導く手がかりとなり、結果、その後の復興基本法策定や復興に向けての財政措置に対し、その思いをつなげることが出来ました。



民主党栃木県第2区総支部
衆議院議員 福田昭夫

10月10日、今市文化会館・大ホールにて「正しい知識を身につけて、放射線から身を守ろう!」と題した研修会を開催いたしました。空本誠喜衆議院議員(工学博士)、石森久嗣衆議院議員(医師)を講師とした当研修会に、当日は多数の市民にご参加いただきました。多くの方が原発事故による、放射能汚染に不安を抱えています。事故の早期終息と安全対策に、福田代議士も全力で取り組んでいます。



《鹿沼市支部の第1回総会開催!》

去る11月23日(祝)、鹿沼市内において民主党栃木県鹿沼市支部第1回総会が開催されました。70名を超える党员、サポーター同志をはじめ、石森久嗣県連代表や福田昭夫第2区総支部長、谷博之、築瀬進両県連常任顧問、佐藤信鹿沼市長等を来賓に迎え、役員選出、規約改正、今後の支部活動方針を決定しました。民主党の地方組織の立て直しが急務となっています。2年後の国政選挙を視野に、地方から民主党を盛り上げていくためにも、鹿沼市支部は党勢拡大を目指し、邁進していきます。



栃木県内の国会議員(総支部) 活動報告



民主党栃木県第5区総支部
衆議院議員 富岡芳忠

先の総選挙では多くの方のご支援により、2005年以来この地に根差して政治活動を続けさせて頂き、初当選を果たすことが出来ました。国会議員としての活動も2年を経過し、この間、財務金融、内閣、国土交通の各委員会と、それぞれ重要常任委員会で、政権交代以来の日本の再生に向けた議論と提言を行って参りました。

また平成22年度本予算案関連法案の討論では本会議で登壇し、財政再建等の国政の諸課題を克服する骨格作りの必要性を熱く訴えさせて頂きました。

しかし未曾有の大震災・津波被害と原発事故により日本再生の道筋は、停滞と軌道修正を余儀なくされています。国会として震災からの復興復旧に一早く対処するために「東日本大震災復興特別委員会」が立ち上げられましたが、若手の中から委員の一人として抜擢を受け、関連法案の審議に加わり、第3次補正予算での本格的な復興復興対策につながる道筋作りを行いました。そして新たに発足した野田内閣のもとでは農林水産委員を拝命し、TPP交渉への参加に向けて関係国と協議を開始する中での、農林水産林業の再生に取り組む論議を行っています。



今後も、皆様の御声を国政に届ける国会議員としての使命を胸に新たにして「国民の生活が第一」の政治の実現を目指し、全力で取り組んで参ります。



民主党北関東比例区第6総支部
衆議院議員 玉木朝子^{ともこ}

「玉木朝子を支援する会」は、9月4日(日)に地元砂田地区にお住まいの方や、日頃お世話になっております関係者の方々をお招きして、第2回収穫祭を事務所の駐車場で開催しました。今年は昨年より内容を充実させようと、設備面では日産労組さんからお借りしたテントやテーブルを多数配置、ご近所の方に作っていただいたヨシズの休憩場所も大きく増やし、収穫祭会場の雰囲気盛り上げることが出来ました。

さらに、子供達に喜んでいただけるよう、手作りの綿あめやポップコーン等を増やし、加えて昨年好評だった、お好み焼等の内容もバージョンアップしました。

途中、子供達には事務所で作ったスイカでスイカ割りを楽しんでいただきました。なお、このスイカを始め収穫祭に使用する夏野菜は、事務所とご近所の方々共同で、種まきから、草取り、収穫までご協力いただき、丹精込めて作らせていただいたものです。

手作りの収穫祭でしたが、ご近所の方との『ふれあい』と子供達に楽しい思い出を残してあげられる一日になりました。





**民主党栃木県第3区総支部
民主党栃木県参議院第2総支部
参議院議員 谷 博之**

本年は3.11の東日本大震災以降、今まで以上に皆様とのつながり、絆を感じる一年となりました。県内の災害地視察と同時に、宮城・福島両県に地元の後援会の方より支援いただいた物資を届けながら、地元の議員や障がい者団体、被災された住民の皆様から要望を受け、政府に提言させていただきました。



また、気仙沼市の解体作業をしているとき、空に希望の彩雲を見た事が今でも忘れられません。支援活動はこれからも続きます。

《法務大臣政務官に就任》

また、9月5日に法務大臣政務官に任命され、早々に県内の法務省施設を視察いたしました。私が担当しております『人権侵害救済法案』の成立に向け、真摯に取り組みながら、地元と国会、さらに政務官として公務政務に邁進する所存です。



**民主党栃木県第4区総支部
衆議院議員 山岡賢次**

第4区総支部長の山岡賢次代議士が、9月に発足した野田新内閣において、**国務大臣 国家公安委員長、内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）、拉致問題担当大臣**に就任されました。日本はもとより、栃木県、地元地域の発展のためにも大きな力になっていただけるものと確信しております。



本年は統一地方選挙の年でもありましたが、その直前に東日本大震災が起き、三陸沖中心に津波の被害も含め嘗てないほどの甚大な被害を受けました。また、福島第一原発の事故が発生し、福島県はもとより、隣県の栃木県も地震による被害も含め原発事故の影響も大きい中の選挙戦となりました。更には、民主党への逆風も重なり、大変な苦戦を強いられましたが、各支援候補者はそれぞれ素晴らしい戦いを展開され、惜敗した方が一部おりますが、何とか現状維持が図られました。



日々の活動におきましては、党政拡大や各議員の後援組織拡大に向け、「山岡大臣を囲む懇談会」を地域ごとに精力的に開催し、地域の皆様から民主党政権へのご意見やご要望などを頂いたり、地元地域の陳情を受け、対応を図るなど地域に密着した活動に励んで参りました。皆様とお約束しました「生活が第一」の政治の実現に向け、総支部一丸となり皆様のご期待に応えて参りますので今後とも力強いご支援を宜しくお願い申し上げます。

栃木県内の国会議員(総支部) 活動報告



**民主党参議院比例区第78総支部
参議院議員 田城 郁**

東日本大震災以降、栃木県をはじめ各県被災地を回り、復旧復興に必要な対策を党本部や各省へ随時要請している田城郁参議院議員は、参議院東日本大震災復興特別委員会で政府に質問を行いました。

10月28日の委員会では、「原発事故の被害、作物・酪農・肉牛への風評被害、観光被害、また保管場所が狭まる中で放射性物質の含まれた汚泥処理の問題は深刻で、国による中間処分場及び最終処分場の確保が急務だ」と質問しました。政府からは、「中間貯蔵施設は、福島県内に設置し30年間保管の後、最終処分場は福島県外に設ける」「来年1月からは本格的な除染作業や指定廃棄物の処理が進んでいくと考えている」というロードマップが示されました。

最後に田城郁は、「忘れられがちな栃木や茨城、千葉に対しても、全力で復旧復興に努力して欲しい」と念を押して質問が終わりました。



**民主党栃木県参議院第1総支部
前参議院議員 築瀬 進**

私が、1991年1月7日以来、JR宇都宮駅西口・県庁前・東武宇都宮駅北口前で毎週月曜日に行ってきたマンデーレポートが10月24日に900回を達成致しました。皆様の深いご理解ご支援に心から御礼申し上げます。また、当日は、原口一博元総務大臣が朝早くに宇都宮入りする等、多くの皆様のご協力を賜り盛大に開催することができました。街頭演説終了後は、原口元総務大臣とトークライブを行い、「テレビと政治」をテーマにTV収録の裏側やTPPに関することまで、様々な議論をさせていただきました。



11月21日には900回達成を記念して、さきかけ時代から共に頑張ってきた鳩山由紀夫元内閣総理大臣、大畠章宏前国土交通大臣、海江田万里前経済産業大臣の3名を迎え、「とちぎ経済の現状と未来を語る会」を開催致しました。語る会では、大震災の復興支援やTPPについて等、来場者と3先生との意見交換を行い、栃木県の厳しい現状を理解してもらい、今後の政策に反映して頂くようお願い致しました。私自身もこの現状を一刻も早く脱するために、より早く国政に復帰し、皆様のお力になることを改めてお誓い申し上げます。



● 県議会民主党会派「民主党・無所属クラブ」による県外政務調査 <平成23年6月7日(火)～8日(水)実施>

「百聞は一見に如かず」—— 議員は現場第一主義に徹すべし ——

6月議会を控え、大地震・大津波による被災状況とともに、福島第一原発事故の影響状況を調査するため福島県南相馬市および全村民が避難することになっている飯館村を訪問しました。



南相馬市役所にて

南相馬市の津波による被害は想像を絶するもので、船が海岸から5kmも離れた陸地に15隻も放置されている状況をはじめ、防波堤が破壊され、1トン以上あるであろうテトラポ



飯館村役場にて

テトラポットが海岸から▶500m以上離れた田の中に散乱する南相馬市の光景。現場を見ずして語ることはなけれ!!

◀最も早く避難村民を受け入れてくれた鹿沼市に感謝の言葉をいただいた!!

ットが海岸から500m～600m離れた田んぼの中におびただしく散乱している光景にはただ息をのむばかりでした。

まさに「百聞は一見に如かず」をまざまざと実感させられました。飯館村は地震・津波の被害でなく、放射能汚染の影響をまともに受けた地域です。目に見えない恐怖とはこんなに恐ろしいものかと絶句し、お見舞い申し上げるのが精一杯でした。全村民6,000人が避難しなければならない中、1,800人も人がどうしても避難したくないという現状に、どうしようもないという村長さんのつらさ、苦悩には言葉のかけようがありませんでした。



● 宇都宮市議会 民主党系会派「市民連合」議会活動

平成23年9月議会において市民連合の今井恭男議員より「放射性物質を含んだ下水汚泥等の取扱いについて」の一般質問がなされ、執行部からは「飛散防止のために耐久性の高い袋に詰めるなど安全性を確保しながら、宇都宮市の年間搬出量に相当する約1千3百トンを搬入する予定である」との答弁。

放射性物質を含んだ浄水発生土及び下水汚泥の保管は、新たな一時保管場所も12年6月には限界に達すると見込まれており、それ以降の保管場所や安全な埋め立て処分先の確保が喫緊の課題です。執行部の答弁を受け、新たな一時保管場所を確保した川田水再生センターと松田新田浄水場を現地調査しました(10/3)。

現場からは、今後の有効な処分場所の確保が大きな課題であり、保管するに当たり費用負担も大きく予算措置も必要であるとの切実な声があり、本市のみならず全国的な問題でもあることから、政府に対し積極的に働きかけることとしました。



市民連合会派より民主党1区総支部及び民主党栃木県連に対し「放射性物質を含む浄水発生土及び下水汚泥等の取扱いに関する要望書」を10月12日に提出。

これを受けた民主党栃木県連(代表:石森久嗣)は、市民連合の眞壁英敏議員、福田ちえ議員とともに10月21日、民主党幹事長室へ要望書を提出。政府に対し、地方自治体においては喫緊かつ最大の課題となっている現状を訴え、早急に適正な処分方策を定めるとともに、国において埋立て可能な処分場を確保すること、放射性物質を含んだ浄水発生土や下水汚泥、焼却灰等の保管、運搬、処分、モニタリング及び作業員の安全確保等に要する経費について、財政支援策を講じることを強く要望しました。

● 女性議員ネットワーク会議 総会・研修会

民主党の女性自治体議員でつくる「女性議員ネットワーク会議」の総会・研修会が11月6日から2日間、都内にて開催されました。全国から女性議員150名が集まり、本県からも福田智恵宇都宮市議と山本はるひ那須塩原市議が参加しました。

1日目は「子育てを社会で支える理念と政策」と題する小宮山洋子厚生労働大臣の講演、「災害と女性」をテーマに東日本大震災での男女共同参画の視点を踏まえた被災者支援の取り組みについての内閣府男女共同参画局担当者の講演を聞き、活発に質疑を行いました。

2日目は横浜市消防局の女性消防士第1期生の経歴を持つ横浜災害ボランティアバスの会代表理事の秦好子さんが「被災地支援一男の目線・女性の目線一今、救える命を大切に」と題して講演。新潟中越地震や東日本大震災の被災者支援のために女性5人が中心となって大型支援チームを立ち上げてきた経験も踏まえ、被災地で子どもや母親、お年寄り、障害者などの直面している困難への想像力の重要性を訴え、「女性議員の皆さんへの期待が大だ」と呼びかけました。

女性の視点・ニーズを反映した復興・生活再建の事例が多くあり、地域づくりにおいても女性、子ども・若者、高齢者、障害者が声を上げられやすい環境を整備していくことが大変重要であると感じました。被災者はもちろん、弱者に対する政策がより速く実現するよう、地方においても全力で取り組まなければと決意を新たにしました。

